

浪江町の様々なテーマを深堀しご紹介『浪江のあれこれ』

れきし

2021-02-05

浪江の「かくれた歴史」…権現堂城



「権現堂城跡入口」の標柱

新町通を北へ、県道120号線を小高方面に向かうと右側に「権現堂城跡入口」という標柱があります。この奥が権現堂城（別名西台館）跡です。

車では奥まで進めません。

徒歩であれば入口が何箇所かあります。かつては、徒歩で本丸跡付近まで辿り着けたので、散歩コースに良い場所だった様です。しかしながら今現在は、笹藪地帯となっており、奥までたどり着くには相当の勇気と覚悟が必要かもしれません。（立ち入り禁止ではありません。）

権現堂城の築城年代は定かではありませんが、文安年間（1444～1449）に標葉清隆（しねはきよたか）によって築かれたと伝えられています。



今も残る土塁跡

場所は西台、請戸川の北岸です。ご存知のように戦国時代に入ると、北方の相馬氏、南方の岩城氏との抗争が激しくなり、嘉吉年間に築城した本城館は、平城で防備に難が有った為、防衛力の高い城を求め権現堂城に移ったと言われています。



城の敷地内から街並みを望む

標葉氏は、標葉六騎七人衆という一族を率い、平安末期から標葉郡で安定した勢力を保っていました。しかしながら、1492年、相馬盛胤に攻撃され、城主・清隆とその子隆成は自刃し、約300年に渡ってこの地を支配していた標葉氏は滅びてしまいました。



雷神社

現在、権現堂城跡の敷地内に祀られている雷神社は、後世に安置されたものだそうです。

西台の氏神様であり、嘗ては、ここを駆けまわって遊んだという方には、当時の様子を楽しそうにお話して頂きました。また、盆踊りをしたという方、更には、裸参りの経由地であったなど、浪江町民に大変親しまれた場所だったとのことでした。

桜の季節に、リバーラインと権現堂城跡を散歩して、昔を懐かしみながら時を過ごせればいいのにな～、とふと思ってしまいました。

皆さん、如何ですか。そんな浪江町の歴史にわくわくしませんか。

出典・参考文献：「日本城郭体系 権現堂城」「みちのく悠々漂雲の記」「浪江町ホームページ」
取材・編集：一般社団法人まちづくりなみえコミュニティ再生支援事業 地域づくり支援専門員

▼一般社団法人まちづくりなみえ

<http://www.mdnamie.jp/>

関連記事



「標葉郷野馬追祭」が開催されます！

2023-07-26



令和5年度相馬野馬追軍者会が開催されました

2023-07-03



浪江町の様々なテーマを深堀しご紹介『浪江のあれこれ』

2021-02-05